

令和7年度

西宮市 認知症地域支援推進員活動報告

にしのみや市民祭りでの声かけ体験 ～民生委員・児童委員との協働を通して～

認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員:2名

令和3年度から“認知症つながり推進員”の通称で活動中

2 認知症地域支援推進員の役割

(1) 認知症の正しい理解と支援方法等に関する周知・啓発を推進する

- ・認知症サポートべんり帳(認知症ケアパス)、認知症チェックシートの普及・啓発
- ・キャラバン・メイト養成・育成支援、認知症サポーターステップアップ講座支援
- ・認知症早期発見・対応啓発講座の開催
- ・あったか見守り声かけ講座の開催及び開催支援

(2) 認知症の人を支援する関係者との連携

- ・包括、医療機関、家族会、社会福祉協議会などとの連携
- ・認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チームとの情報交換・ケースの共有(認知症連携推進会議)

(3) 認知症の人や介護者を支える体制の充実

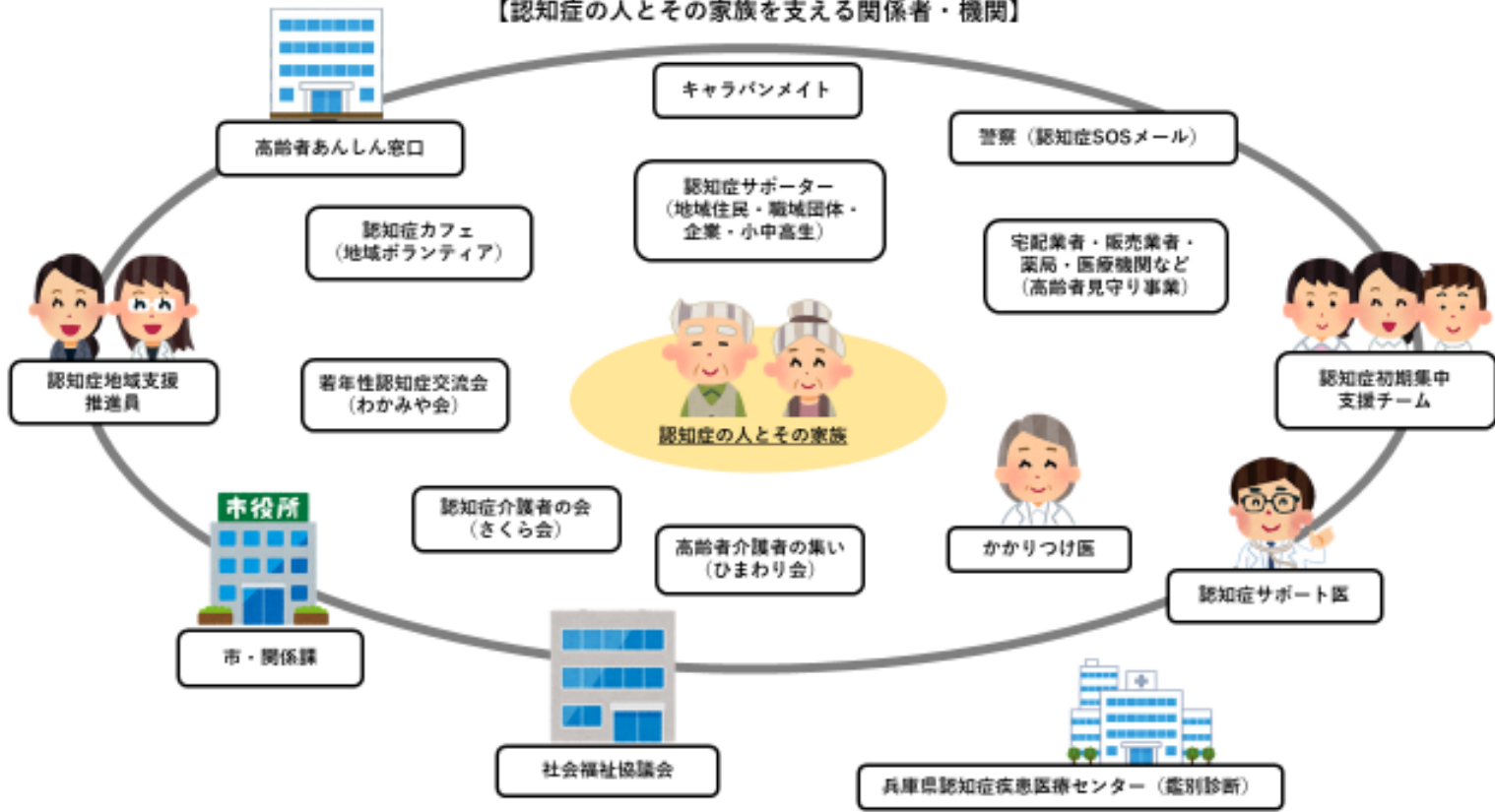
- ・認知症研修会、事例検討会の開催
- ・認知症カフェの立ち上げ・継続支援
- ・若年性認知症交流会『わかみや会』の運営支援及び若年性認知症の人と家族への個別支援
- ・認知症の本人や家族ができる範囲での役割を持ち、認知症サポーターとともに、本人や家族の支援ニーズに合った活動を支援する仕組み西宮版チームオレンジ(みやっこ🍊range)を構築

報告者氏名:地域共生推進課 西本麻依子

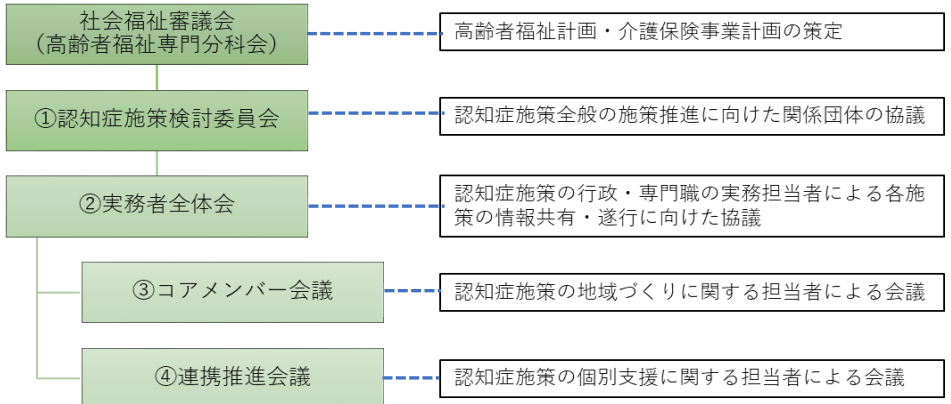
認知症地域支援推進員 後藤香織・齋藤環

西宮市 認知症施策全体図

【認知症の人とその家族を支える関係者・機関】



協議体について



にしのみや市民祭りでの声かけ体験 ～民生委員・児童委員との協働を通して～



これまでの市民祭りでの取り組み

【目的】無関心層への啓発

【目標】市民が認知症かも?となった時に相談窓口や受診先を知っている


【内容】市発行物などの配布、啓発ティッシュの配布、認知症に関する啓発パネル展示、啓発クイズ、ロバ隊長のプラバン作り、声かけ体験など

- 始まりは、H25年度の若年性認知症のリーフレットの配布
- H26年度からは、認知症啓発ブースを構え、市民に向けての啓発活動を展開
- わかみや会、認知症サポーターステップアップ受講生、認知症カフェなどボランティアと一緒に運営
- 認知症地域支援推進員が相談対応



令和7年度にしのみや市民祭りで民生委員・児童委員協力のもと、あったか見守り声かけ体験の開催に至った経緯

- 令和4年度から市と推進員が主催で毎年4回程度、あったか見守り声かけ講座を実施
- 令和6年9月24日に西宮市民生委員・児童委員会、福祉部会の依頼を受けて、研修の一環としてあったか見守り声かけ講座を実施
- ➡ その後、各地域の民生委員・児童委員（以下「民生委員」という）からの依頼があり、民生・児童協力委員向けの講座で声かけ講座を行った。
- 例年、市民祭りでは認知症啓発ブースと民生委員啓発ブースが隣で出展していた。
- 令和元年に、認知症啓発ブースで「あったか見守り声かけ体験」を行ったことがあり、民生委員・児童委員事務局（以下「民生委員事務局」という）と行政の認知症施策担当の中で、令和7年の市民祭りでは協力して声かけ体験が行えないか、との話になる。



令和7年2月、民生委員事務局が市民祭りでの民生委員ブースを担当する西宮市民生委員・児童委員会、広報委員会で説明を行う。広報委員会では取り組みに関して賛成を得て、企画・運営・進行については認知症施策担当と検討していくことで賛同を得る。

2カ月に1回の民生委員の広報委員会で検討していく

4月 他の案件があり、市民祭りについては検討できず

6月 再度、民生委員事務局から説明



民生委員の意見

- 認知症担当からの説明も聞きたい。
- 祭りの場で認知症患者を取りあげると軽く取り扱っていると誤解をまねいてしまわないか。
- 実施方法を慎重に詰めていかないと失敗してしまうのでは…。

8月の広報委員会に認知症担当と推進員が出席し、しっかり説明することになる。

8月 広報委員会に出席し、共同出展の目的を認知症啓発側、民生委員側のそれぞれの視点での目的を説明し、意見交換をする。



民生委員の意見

- 「認知症の人」ではなく「困っている人」への声かけ体験とするのがよいのでは。
- 祭りという場で人も多い中で声かけは時間も取ってしまうが上手くできるのかしら？
- 民生委員自身も声かけ講座を経験していない人も多い。

声かけ講座は「認知症の人」を見分けるのではなく、「困っていそう」「心配」な人へ声をかける練習の講座。

過去にもやった経験があるので、できる方法を一緒に考えましょう。

9月に講座を開催するのでぜひ受講してみてください。

市民祭りで共同でのあったか見守り声かけ体験の実施に承認を得て、9月に臨時で広報委員会を開催し、模擬体験を行うこととなる。

9月

9月開催の声かけ講座に参加してくださる民生委員もおられた。臨時広報委員会で模擬体験も行い、更に理解を深めてもらった。

声かけ体験・認知症啓発ブースの運営・役割分担

民生委員と認知症啓発ブースがコラボしての声かけ体験

ボランティア (声かけ体験+クイズ)

(若年性認知症交流会わかみや会・認サポステップアップ受講生・認知症カフェ)

事前:啓発ティッシュ作り

当日:受付、アンケートや景品渡し、市の発行物の紹介など

声かけ
体験
4回実施

民生委員 (声かけ体験)

事前:広報委員会で企画の理解・賛同・リハーサル

当日:声かけられ役
声かけられ役フォロー

認知症啓発
ブース

クイズ・
認知症観
アンケート
も実施

認知症担当 (声かけ体験+クイズ+相談) (市・社協・推進員)

事前:計画書等作成・民生委員事務局との調整・広報委員会での説明・リハーサル実施・使用物品準備

当日:ボランティアに役割と分担説明
声かけ体験参加者にやり方説明
民生委員に役割説明
全体フォロー、広報活動、相談

協力

民生委員
事務局の
バックアップ

市民祭り当日の様子



どうしましたか？

足が痛くてね



あー、こんにちはー

こんにちは～



うーん、疲れたから座ってます

ずっと座っておられるので、どうされたのかなと思って声をかけました。

認知症についてどんなイメージを持っているか？
聞きました。
ポジティブに考える方も少しずつ増えてきています。

認知症啓発ブース



まとめ

- ・民生委員事務局と行政の認知症施策担当が、協働実施の可能性を見出したことで、今回、民生委員との声かけ体験の実施に至った。
- ・しかし、実施に至るまでにはもっと丁寧な説明や意見交換を始めからしっかりと行い、実施のイメージの共有をしておくべきであった。
- ・毎年、認知症啓発ブースを展開してきたが、今回、民生委員と一緒にすることで、改めて様々な市民感覚での認知症観や啓発の意義に気づかされた。
- ・今回の民生委員の協力は認知症啓発ブースへの手伝いという形での協力であったが、今後は協力ではなく協働展開していきたい。そしてこれをきっかけに日々の認知症支援の連携体制につなげていきたい。

最後に

今回の市民祭りでは、民生委員やボランティア、行政、社協、推進員が一丸となって認知症の啓発に取り組んだが、その取組の過程そのものが、まさにみやっこ 🍊 range (西宮市版チームオレンジ) の姿だったように思う。西宮市では今後、みやっこ 🍊 range をさらに広げていきたいと考えているが、意図的に広げていくだけでなく、日々の活動の積み重ねの中から自然と生まれ、広がっていくものでもあることを実感した。